

学校教育目標

創 **【未来を拓く】**

～輝く瞳、笑顔とあいさつ、光る汗～
めざす生徒像

「考え、行動し、夢をもって成長する」生徒

- (1) 学び合い、高め合う生徒⇒輝く瞳・・・(知)
- (2) 認め合う、心豊かな生徒⇒笑顔とあいさつ・・・(徳)
- (3) 心身共に健康な、たくましい生徒⇒光る汗・・・(体)

校訓 自分らしさと光らせて

めざす学校像

- (1) 学力向上に努める学校
- (2) あいさつと歌声が響く学校
- (3) 安全で安心してすごせる学校
- (4) 地域とともに歩み、信頼される学校



「もらおう」とする人、
「与えよう」とする人

これは、アメリカの話です。

ある鉄道会社の社長が、線路の修理現場を視察していた時、一人の作業員が親しげに話しかけてきました。

「久しぶりだね！君も随分出世したもんだ。君が社長になったと聞いた時は、本当に驚いたよ。」

見るとその作業員は、約10年前に社長と一緒に作業員として働いていた友人でした。

彼はこう続けました。

「10年前は一緒に、50ドルの日給をもらうために働いていたのにな。君も変わったね。」

社長は答えました。「そうだったのか…。君は50ドルをもらうために働いていたのか…。私は10年前も今も、この鉄道会社のために、そして、世の中の人たちに快適な旅をしてもらうために働いているんだ。」

「何のために働くのか」という目的の違いで、同じ仕事をしていてもこれだけの差がついてしまう。恐ろしいことです。50ドルを「もらうため」に働いている友人は、10年前も今も、50ドルを「もらうため」にしか働けないでいる。

しかし、この社長は、「何とか人の役に立ちたい」「どうしたら世の中の人たちに喜んでもらえるだろうか」と「あたえるため」に働いて、ついには社長にまでなったのです。

同じような話で、こんな例もあります。

営業マンのAさんは、かつて新規のお客様にアポをとって会いに行くのがとても苦手でした。なぜか躊躇する気持ちが出てきて、行動量も少なかったそうです。

当時は、「お客様に信頼してもらえるだろうか」「話を聞いてもらえるだろうか」「商品に興味をもってもらえるだろうか」と「もらうこと」ばかり考えていたそうです。

しかし、ある時から、「自分はお客様に何を与えることができるのだろうか」と考え始めたそうです。「お客様に信頼してもらえなかったとしても、お客様に役立つ情報を提供できないだろうか」「話を聞いてもらえなかったら、せめてお役に立つ資料を渡したいな」「商品に興味をもってもらえない時は、どんな形でお客様を喜ばせることができるだろうか」と。

これらを考えているうちに、アポ取りを躊躇する気持ちがなくなり、楽しく営業できるようになったそうです。

【与える者は与えられる】

「〇〇に…してもらいたい」と「もらうこと」ばかり考えている人は、最後には「こんなに頑張っているのに…してくれない」「…してくれない」「…してくれない」と、うまくいかないことを他人のせいにするようになるそうです。そして、心の中は、いつもイライラや不安・ストレス等であっぴいになりがちです。

「何を与えることができるんだろう」と「与えよう」と思って生活する方が楽しいと思いませんか？

